

防災訓練を行います

10月30日(日)9時より13時まで若葉小校庭・体育館にて、防災訓練を晴雨に関わらず開催します。

今年コンセプトは、大規模災害の発災直後を想定しての避難所開設と、地域住民の安否確認です。ご参加いただく皆さんにはスタンドパイプを使った放水、倒壊家屋からの救出・搬送、三角巾を使った止血法と固定法を経験していただきます。また体育館でアルファ米を試食して、避難所での食事体験もしていただきます。

(防災推進委員長 川崎 健次)

「人をつなぐ・地域をつなぐ」 ～入間町城山遺跡～

調布市入間町2丁目44、元、中央電気通信学園のグラウンド跡地の発掘調査が行われ、先日一般公開された。

古墳時代後期の竪穴住居が、地表から1.5m～2.0m位下がった所から発掘された。住居跡には、土器の破片、石の勾玉や鉄製の矢じり等が点在しており、当時の加工技術の高さがうかがえる。特に石で出来た勾玉は、研磨やひも通しの穴あけの技術が素晴らしい。前回の発掘では、160位の住居があったとのこと。この辺りは、古(いにしえ)は大集落があったと思われる。

ここから西側、200m離れた所に代々伝わっている糟嶺神社は、多摩郡内の4墳陵の一つである陵山古墳(ミササギヤマコフン)又は丸山古墳と言われる上に建って居る。

城山遺跡と陵山古墳との関係が知りたくなった。

(副会長 広報・地域交流推進担当 清水 正孝)



～三世代交流ふれあいクラブ～

当初は、入間地域センターを中心に活動を行っていた老人クラブであったが、今から16年前、中心的な活動を行っていた南塚さんからの提案で、年寄り・親・子で楽しめる活動団体にしようということになり、今日に至っている。

一年間の活動は、

- 1月 新春お茶会(凧作り、手芸)
- 3月 親子で工作教室
- 5月 三世代輪投げ大会
- 8月 手芸、工作教室
- 10月 三世代ふれあい祭り(はつらつ地域まつり)

等を行っている。社会福祉協議会の応援と支援を受けながら、地域と密接な関係を保って活動している。

(副会長 広報・地域交流推進担当 清水 正孝)



編集後記

平成21年3月の設立以来、地域のニーズに即した活動を目指してきました。そして今年、「新種」の委員(若手の一般勤労者)の登場は、次世代育成の必要と可能性を我々に問いかけてきます……。はじめの一步は仲間を増やすこと。

地域活動に興味がある方、地域を知りたい方、下記までご連絡ください。

◆調布市協働推進課:042(481)7036 ◆地区協mail:wakabatikukyo@gmail.com

(広報・地域交流推進委員長 山崎 治子)

地区協わかば

第15号 2016年10月発行

発行者:若葉学校地区協議会
会長 藤丸 卓男
事務局:調布市立若葉小学校内
連絡先:調布市協働推進課

042(481)7036

地区協mail:

wakabatikukyo@gmail.com

会長挨拶

～H28年度の活動にあたって～

今年の5月の総会から若葉学校地区協議会の会長に就任しました藤丸です。副会長の時は防災担当をしておりました。この地区に住んでから60年以上経ちますが、地元についてはまだ分からないこともあり、地元の方々のお力を借りて運営してまいりたいと思っております。

若葉学校地区協議会とは若葉小学校の学区内をエリアとして地域で活動する自治会や住民が連携・協力し地域のために自主的に活動するネットワーク組織です。現在は防犯担当、防災担当、広報・地域交流担当の3担当に分かれて活動しております。会員は主に地区内の住民と自治会の代表及び調布市の各施設の代表者などで構成されております。防犯担当は毎週防犯パトロールとゴミ拾いを、防災担当は防災訓練と防災活動を、広報・地域交流担当は広報紙「地区協わかば」の発行と「若葉の杜の音楽会」などを行っております。さらに、夏祭りなど地域のお手伝いもしております。「自分の地域は自分たちで守る」をモットーにできるだけ多くの地区内の方々に参加していただきたいと願っております。これからも地域のために頑張ってお手伝いしてまいりますので、皆さまのご支援をよろしくお願い致します。

(会長 藤丸 卓男)



若葉夏祭り2016

今年度も8月19日(土)・20日(日)に若葉小校庭で夏祭りが開かれました。校庭の真ん中には檣(やぐら)が組み立てられ、その周りを模擬店が囲み、提灯の明かりや浴衣姿に昔ながらの情緒あふれる光景が広がりました。小学生や卒業生、教職員、地域の方など、いろいろな世代の人たちが集まりとても賑やかです。浴衣姿の子どもたちも増えてきたと感じます。

私が若葉小の夏祭りに参加するのはまだ6回目ですが、既に21回目の夏祭りになるのだそうです。毎年のイベントも豊富で、着任以来実施してきた四中吹奏楽部と若葉小音楽委員会との合同演奏や、今年は電通大ジャグリングサークルの発表や本校児童の参加したお囃子もありました。そして、この夏祭りに欠かせないのが盆踊りです。提灯の明かりの下、檣(やぐら)の周りを昔ながらの曲や太鼓の音に合わせて、輪になって踊る景色は夏の風物詩といえます。

今後とも長きにわたり、地域の老若男女が集まる親睦の場として、また、子どもたちにとっての「ふるさと」(大切な思い出のある場所、自分自身を見つめ直せる場所、前に進む力を与えてくれる場所)として、毎年開催されることを願います。

(調布市立若葉小学校長 星野 由美子)



若葉の杜の音楽会 ～ 音楽を通しての地域交流活動 ～

7月2日(土)初夏の訪れと共に、『第5回若葉の杜の音楽会』が若葉小学校で開催されました。安心、安全で、住みやすいまちづくりを目指した活動で、音楽を通じ、幅広い年齢の方々が共に楽しめるようにと、地区協議会の全体事業として取り組みました。今年も音楽会終了後には恒例のミニ縁日も行いました。

第1部は、調布市文化・コミュニティ振興財団の協力による出張ステージ in 若葉『まほうのふえコンサート』で、一村誠也さんの色々な笛の素晴らしい音色が体育館に響き渡りました。

第2部の「うたごえ広場」では、今回も桐朋学園出身の屋敷真公子さんをお迎えし、美しい歌声を楽しみ、来場者の方からのリクエスト曲を全員で歌って、地域の方々とのなごやかなひと時を過ごしました。

その後には、若葉小学校のダンスクラブの皆さんが元気一杯に踊って下さいました。続いて、第四中学校の合唱部の皆さんの清らかな歌声と、吹奏楽部の皆さんの迫力ある演奏があり、来場者から盛大な拍手が送られていました。

(広報・地域交流推進委員 小島 裕)



防犯関係のお知らせ

防犯パトロールと声かけ

地区協の防犯パトロール隊員は、巡回の際、子どもたちへの声かけにも努めています。

皆さんは見知らぬ人から声をかけられたとき一瞬、どう反応しますか。大抵は、先ず声の主はどんな人か本能的な判断があって、対応が始まるのではないのでしょうか。その判断の根拠が過去の見聞に基くものだとすれば、その見聞(知識、経験)が持つ意味は重大です。

子どもたちが経験的に蓄える見聞が耳目によるものが多いとすれば、防犯パトロール時地区協の隊員が必ず着用する、あの黄色い「ピカピカチョッキ」、名札、制帽等が持つ意味にもまた重いものがあると言いたいのです。即ち、あの黄色い「ピカピカチョッキ」は子どもたちの眼には、着用している者への信頼の象徴として映っているのではないのでしょうか。隊員には子どもたちの信頼に応える行動とマナーが期待される所以です。子どもたちの目にはパトロール隊員は安心できる大人たちだとの厚い信頼感があるが故に声かけの意味もさらに深まるものと考えます。

正義の味方であるお巡りさんに対する信頼感も、あの制服に負うところがある様に、地区協のパトロール隊員が着用する「ピカピカチョッキ」が子どもたちに限らず、地域の人たちから信頼の証として見られるような活動を続けていきたいと考えています。

地区協では、志に賛同される方のご参加を歓迎します。

**「あなたの名前やマイナンバーを貸してください。」は詐欺の手口です。
不審な電話がかかってきたら「110番」へ (警視庁HPより)**

(防犯推進委員長 山田 十三男)



防災関係のお知らせ

「平成28年度防災座談会」

今年度の防災座談会を、東部公民館との共催事業として9月11日(日)10時～12時、東部公民館で開催し、52名の参加者を得ました。

藤丸会長の開会挨拶の後、第一部は、①「大地震に備える」(市総合防災安全課堀課長補佐)、②「大地震の火災対策」(調布消防署つつじヶ丘出張所鈴木中隊長)、③「大地震時の留守宅の防犯対策」(調布警察署防犯課大畑係長・同警備課北迫係長)の講演を行いました。

第二部は参加者が四つに分かれ、講演の報告事例に対して自分の家及び自治会等周辺地域の現実はどうなっているのか討論を行いました。④入間川の氾濫を経験している住民からは、それなりの重さのある土嚢の運搬方法の意見 ⑤安否確認を容易にするため各戸は配布を受けた旗の掲示 ⑥非常食を少しでも美味しく食べるための調理方法の紹介 ⑦ゴルフボールとプレーカーを凧糸で結んだ手作り感震プレーカーの紹介 ⑧要援護者(避難行動要支援者)を自治会に登録し、向こう三軒両隣で救援

他方、個人情報理由に開示を拒む家が増えてきているとの意見もありました。

東つつじヶ丘三丁目や若葉三丁目のように自治会とは別組織で防災会を結成している地域がある一方、自治会もなく協力して防災対策を講じる手立てのない地域もあります。さらには自治会に加入していない半数の住民と情報を如何に共有するかが最大の課題であることが改めて分かりました。

(防災推進委員長 川崎 健次)

